

教科	国語				
科目	言語文化	単位数	2	単位	履修年次 1 年次～
使用教科書	新編言語文化（東京書籍）				
副教材等	常用漢字オールクリア 五訂版(尚文出版)・現代の新国語辞典 第七版(三省堂)				

1 グラデュエーションポリシー及びカリキュラムポリシー

グラデュエーションポリシー	卒業までにこのような資質・能力を育成する。 ①規則正しい生活習慣を確立し、前向きに社会生活に取り組む資質を育成する。 ②主体的に行動し、コミュニケーション能力が高い人間を育成する。 ③他者を尊重し、様々な課題を持つ人との関わりを大切に地域に貢献できる能力を育成する。 ④どのような困難にも立ち向かい、適応できる人間に育てる。
カリキュラムポリシー	資質・能力を育成するため、このような教育活動を行う。 ①毎日学校に通うことを目標に、生活リズムを崩さない行動を促す。 ②日々の挨拶や、ルールやマナーを意識した学校生活を行う。 ③他者の立場を尊重し、思いやりや寛容の精神を育成するため、人権同和教育に力を入れる。（年3回以上はクラス単位での授業を行う） ④総合的な探究の時間において、1年次から系統的なキャリア教育を展開する。

2 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通じて、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- ①基本的な言語事項の習得。特に常用漢字と古典の基本語彙を習得する。
- ②文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わう。
- ③文章の的確な理解から、自分の考えを深め、発展させる。
- ④古典に触れることで、自分自身を見つめなおすことを目指す。

4 学習計画

学期	単元名	教材	学習内容(指導内容)	書くこと	読むこと	評価方法
前期	随筆	「さくらさくら」 「心の自由」	引用歌や体験談を読んで、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。		4	定期考査 提出物 授業態度 小テスト
	古文入門	古文に親しむ 「児のそら寝」 宇 治拾遺物語	歴史的仮名遣いについて理解し、説話のおもしろさを読み取る。		8	
	小説	「とんかつ」	会話や行動の描写に着目して登場人物の心情を読み取る。	1	6	
	古文入門	「絵仏師良秀」 宇治拾遺物語	文語の活用の基本について理解し、人物像を読み取る。		7	
	語句	漢字問題集 語彙プリント	小学校の漢字・語句を復習する。	2	1	
後期	漢文入門	訓読の基本 「故事成語」	漢文の特色を知り、訓読の決まりを理解する。		10	定期考査 提出物 授業態度 小テスト
	漢文	「株を守る」 「虎の威を借る」	故事成語の元になった話を読むことを通して漢文の読解に慣れ親しむ。		10	
	小説	「羅生門」	小説の読み方の基本を確認し、小説の面白さを味わう。	1	6	
	古文	「芥川」 「筒井筒」 伊勢物語	歌物語に描かれている内容を的確に捉えて理解する。		10	
	詩歌	「冬が来た」 「少年の日」 「I was born」	詩の読み方の基本を確認し、詩の面白さを味わう。	1	3	
				5	65	(50分授業)

5 課題・提出物等

課題・提出物は締め切りを確実に守って提出すること。
授業時間を利用して漢字テストを実施する。しっかり準備して臨むこと。

6 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め、知識を身につけている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、相手の理解が得られるように表現を工夫し、目的に応じて、伝えたいことを明確にするとともに、文章の種類を踏まえて、内容を的確に捉えている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉を効果的に使おうと粘り強く努力しようとしている。

7 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【評価】 考査・提出物の内容・授業中の発言の「知識・技能」分野が十分に満足できる状況と判断できる・・・A おおむね満足できる状況と判断できる・・・B 努力を要する状況と判断できる・・・C	【評価】 考査・提出物の内容・授業中の発言の「思考・判断・表現」分野が十分に満足できる状況と判断できる・・・A おおむね満足できる状況と判断できる・・・B 努力を要する状況と判断できる・・・C	【評価】 提出物の内容や振り返りシート・授業中の発言が十分に満足できる状況と判断できる・・・A おおむね満足できる状況と判断できる・・・B 努力を要する状況と判断できる・・・C

8 担当者からの一言

国語の目標は自己の表現であり、同時に相手の表現を理解することも大切です。
 小テストで小さな努力を積み重ね、漢字や語彙など国語の基礎力をつけよう。
 受け身ではなく、自ら学んで思考力を高める努力をしよう。
 読書に親しみ、読むことで広がる世界を楽しもう。